

	開催年月日	研究会又は招待講演	演者		話題提供	演者		その他・連絡会
			所属	氏名		所属	氏名	
第 101回	1982年7月20日	低分子免疫調整物質(?)						
第 102回	1982年9月21日	コンピュータ制御による癌の原体照射	都立駒込	松田 忠義	症例 国療東京・昭和大豊洲			
第 103回	1982年10月19日	?						
第 104回	1982年11月16日	BRMの現況	帝京大	古江 尚				
第 105回	1983年1月18日	5FUをめぐる諸問題	阪大微研外科	田口 鐵男				
第 106回	1983年2月15日	私のプロトコール	愛知がんセンター	太田 和雄	症例 Oil BLM経口投与	順大	浜野	
第 107回	1983年3月15日	癌の併用療法－文部省癌特別研究 班長会議－	癌研	塚越 茂				
		BHACについて	鶴見女子大	藤田				
第 108回	1983年4月19日	抗癌剤のfree cellに対するin vitroでの作用	千葉がんセンター	小黒 昌夫	POA(Pancreatic Oncofetal Antigen)について	帝京大	古江 尚	
					BLMの肺繊維症予防に対するエラスターゼの作用	日大板橋	内山 照雄	
第 109回	1983年5月17日	抗腫瘍性多糖類	がんセンター	新田 和男				
第 110回	1983年6月21日	制癌剤の剤型工夫による癌化学療法	秋田大 1外	高橋 俊雄				
第 111回	1983年7月19日	2経路癌化学療法の開発と応用	九大 生態防御医学 研	馬場 恒男	症例 胆嚢癌肝転移の門脈内持続投与	山崎病院	山崎	
					肺癌治験のプロトコール CDDP-VDS対CDDP-ACNUとする		山田	
第 112回	1983年9月20日	化学療法のみによる5年生存	癌研	斉藤 達雄				
第 113回	1983年10月18日	肺癌のVindesine療法	国療共同研究	小松				
		198Au*の腹腔内療法	川崎市立川崎					
		マクロファージ	予研	徳永				
第 114回	1983年11月15日	制癌抗生物質	微生物化学研究所	竹内 富雄				
第 115回	1984年1月18日	5'-DFURをめぐる	阪大微研外科	田口 鐵男	Etposide(NK171)について: 体内動態(藤田)・Phase I, II Study(仁井谷)・文献 的考察			新年会
第 116回	1984年2月21日	乳癌	都立駒込	富永 健	NK171Phase II Study実施要項案審議 CDDP-VDS,CDDP-ACNU治験中間報告			会場:癌と化学療法社集 会室
第 117回	1984年4月17日	発癌のはなし	所沢保健所	河内 卓				会場:今回より癌と化学 療法社5F会議室、会后懇 親会をすることとなる/会 計報告(渡辺一宮温泉病 院)

第 118回	1984年5月15日	レーザーによる癌治療	東京医大外科	早田				
第 119回	1984年6月19日	皮下埋め込み式リザーバー使用による動注癌化学療法—間歇的少量反復動注治療法の可能性について—	愛知がんセンター放射線	荒井 保明	症例 順大		泉・鎌野	事務員改姓 茂木→島田
第 120回	1984年7月17日	Cisplatinの基礎	鶴見女子大	藤田 浩	症例 昭和太			
		泌尿器科系癌の化学療法	慈大	町田 豊平				
第 121回	1984年9月18日	MTX 5FU sequential療法について	都立駒込	佐々木 常雄	症例 昭和太豊洲病院・昭和太2内			
第 122回	1984年10月16日	末期癌の扱い	聖隷ホスピス	原 義雄	症例 東京医大・千葉大肺癌研			
第 123回	1984年11月20日	肝癌	金沢大内科	服部 信	症例 中央鉄道病院			
第 124回	1985年1月22日	癌とリンパ節	癌研	西 満正				新年会(八重洲大飯店)
第 125回	1985年2月19日	腫瘍微小循環特性に立脚した昇圧化学療法	東北大抗酸	佐藤 春彦	症例 獨協大越谷病院			
第 126回	1985年3月19日	トランスファーファクターによる肺癌の治療	千葉大肺癌研	藤沢 武彦	症例 日大1内			
第 127回	1985年4月16日	BRMと癌治療	札幌医大内科	漆崎 一郎	症例 日医大臨床病理学教室			会計報告(渡辺—宮温泉病院)
第 128回	1985年5月21日	がんの温熱療法	がんセンター	柄川 順				
第 129回	1985年6月18日	癌治療とNMR	慈大 放射線科	多田 信平				
第 130回	1985年7月16日	癌の予防医学	予防癌研究所	平山 雄	症例 横須賀共済(谷口)・山崎病院(山崎)			
第 131回	1985年9月17日	抗癌剤の臨床試験の進め方	日医大	仁井谷 久暢	NK171調査表について			
		エストラプチル(KM2210)について	クレハ化学					
第 132回	1985年11月19日	肝癌の治療(エンボリゼイション)	山梨医大1外	菅原 克彦				
第 133回	1986年1月21日				次回治験: 肺癌CDDP—VDS, CDDP—ACNUなど 消化器・胃癌維持療法としてのUFT/590—S(5FU誘導体)			新年会(八重洲大飯店)
第 134回	1986年2月18日	膵癌の診断	癌研外科	高木 国夫	590Sの治験について			
					胃癌に対するUFTの治験について			
					UFT細粒のPhase II Studyについて			
第 135回	1986年3月18日	発癌遺伝子	東大医科研	豊島 久真男	肺癌の次期治験について			
					590Sの治験について			
					UFTによる維持療法の治験について			
第 136回	1986年4月15日	BRMの新しい考え方	癌研	塚越 茂				会計報告(渡辺—宮温泉病院)
第 137回	1986年5月20日	アジュバントとしての免疫療法	岡山大外科	折田 薫三				
第 138回	1986年6月17日	インターロイキンをめぐる基礎と臨床	札幌医大4内	新津 洋司郎	症例 山崎病院(山崎)			

第 139回	1986年7月15日	スマンクス	熊本大微生物	前田 浩				
第 140回	1986年9月16日	抗癌剤の服毒性	埼玉がんセンター	吉田 清一				
第 141回	1986年11月18日	癌とプロスタグランジン	愛知がんセンター	福島 雅典	症例 都立広尾(藤川)			
第 142回	1987年1月20日	癌の多様性とそれへの対応		井口 潔				新年会(八重洲大飯店)
第 143回	1987年2月17日	FO152について	癌研	塚越 茂	59OS治験中間報告			
		FO152体内動態	鶴見女子大	藤田 浩	UFT治験中間報告	帝京大	込田	
		FO152Phase I Study	日医大	仁井谷 久暢				
第 144回	1987年3月17日	ドラッグデリバリーシステム	聖マリアンナ大1内	水島 裕	次期治験について(FO152又はMST16とする)			
第 145回	1987年4月21日	抗癌剤感受性試験 腎皮膜下移植法	都立駒込	坂井 保信				会計報告(渡辺一一宮温泉病院)
第 146回	1987年5月19日	AIDS	帝京大	阿部 英				
第 147回	1987年6月16日	泌尿器科癌の化学療法	帝京大	新島 端夫				
(7月休会 国際学会のため)								
第 148回	1987年9月22日	漢方と癌治療	杏林大2外	鍋谷 欣一				
第 149回	1987年10月20日	STSIによるCDDPの腎障害抑制	日医大	仁井谷 久暢	症例 インターフェロンによる胃癌著効2例	帝京大	古江 尚	
第 150回	1987年11月17日	骨髄移植	大阪府立成人病センター	正岡 徹	症例 東京医大			
第 151回	1988年1月19日	サイトカインと癌治療	阪大微研外科	田口 鐵男				新年会(八重洲大飯店)
第 152回	1988年2月16日	MST-16・FO-152	癌研化療センター	塚越 茂	次回治験薬 FO-152とMST-16に決定			
			日医大	仁井谷 久暢				
			帝京大	古江 尚				
第 153回	1988年3月15日	G-CSFの現況	東大内科	高久 史磨				
第 154回	1988年4月19日	薬剤耐性	癌研化学療法部	鶴尾 隆				
第 155回	1988年5月17日				MST-16とFO-152第Ⅱ相試験の進め方について			
第 156回	1988年6月21日	癌における免疫不全と感染症	国療刀根山病院	螺良 英郎				
第 157回	1988年7月19日	プレオマイシン類をめぐって	日本化薬総合研究所	滝田 智久	症例 都立駒込(坂井保信)			
第 158回	1988年9月27日				東京がん化学療法研究会規約について			
第 159回	1988年10月18日	メタロチオネイン誘導体による抗癌剤の副作用防止	北里大薬学部公衆衛生学	井村 仲正				

第 160回	1988年11月15日	抗腫瘍多糖類の新しい作用機序	千葉県がんセンター		MST-16試験用法変更について FO-152前期第II相試験実施要領案について			
第 161回	1989年1月17日	新抗癌剤の臨床試験の進め方	東京医科歯科大臨床薬理	佐久間 昭	カンプトテシンについて	帝京大	古江 尚	
第 162回	1989年2月21日	DNAトポイソメラーゼと抗腫瘍耐性について	明治薬大衛生化学	安藤 俊夫				
(3月休会 休日のため)								
第 163回	1989年4月18日				制吐剤グラニセロン試験について 会則について			会計報告(渡辺一石和温泉病院)
第 164回	1989年5月16日	癌の免疫療法	北大癌研病理	細川 眞澄男	抗癌剤のスクリーニングについて	千葉がんセンター	新田	
第 165回	1989年6月20日	肝臓癌の臨床	金沢大1内	服部 信				
第 166回	1989年7月18日	大腸ポリポージス	兵庫医大2外	宇都宮 譲二				
第 167回	1989年9月19日	皮膚癌の治療	埼玉医大	池田 重雄				
第 168回	1989年10月17日	フッ化ピリミジン系抗癌剤発展の流れ	大塚製薬琵琶湖研究所	白坂 哲彦				
第 169回	1989年11月21日	泌尿器腫瘍 治療の現状(特に睾丸腫瘍)	大阪府立成人病センター泌尿器科	古武 俊彦				
第 170回	1990年1月16日	癌抑制遺伝子	癌研遺伝子研究施設	小池 克郎				
第 171回	1990年2月20日	癌死 その免疫学的アプローチ	名大予防医学	青木 国雄				
第 172回	1990年3月20日	腫瘍マーカー	がんセンター臨床検査	大倉 久直				
第 173回	1990年4月17日	胃癌化学療法 最近の動向	昭和大豊洲	栗原 稔	会長選挙			会長交代 古江 尚→仁井谷 久暢 会計報告(渡辺一石和温泉病院)
第 174回	1990年5月15日	B,C型肝炎ウイルスと原発性肝癌	日赤中央血液センター	西岡 久寿弥				
第 175回	1990年6月19日	癌のsupportive therapy	札幌医大内科	漆崎 一郎				
第 176回	1990年7月17日	QOLと癌化学療法	司会 古江 尚 (帝京医大)		症例 杏雲堂(佐藤博)			
		1.胃癌化学療法とQOL	昭和大豊洲	栗原 稔				
		2.肺癌化学療法とQOL	日医大	仁井谷 久暢				
		3.癌化学療法におけるQOL測定法の妥当性と信頼性の検討	がんセンター	江口 研二				
第 177回	1990年9月18日	リザーバーを用いた転移性肝癌に対する動注化学療法	愛知がんセンター放射線	荒井 保明				
第 178回	1990年10月15日	胃癌とシスプラチン	慶大外科	石引 久弥				
第 179回	1990年11月20日	骨病変の鑑別をめぐって	帝京大整形	立石 昭夫	症例 昭和大 好酸球増多を伴う肺癌例			
第 180回	1991年1月22日	癌免疫療法の状況 -bispecific antibodyの応用-	順大免疫学	奥村 康				新年会(癌と化学療法社会議室)

	1991年2月2日	胃癌に対するシスプラチンを中心とした化学療法の研究についての打ち合わせ	一条会 昭和大藤が丘 順大 国療神奈川 帝京大 日医大 昭和大豊洲	馬島 生田目・佐々木 鎌野 勝又 花谷 山野 栗原				癌と化学療法社 5F
第 181回	1991年2月19日	輸血を巡る諸問題	東京都日赤血液センター	中尾 功	胃癌のCDDP療法のアンケート結果について			
第 182回	1991年3月19日	固形癌の化学療法 ー特に消化器癌を中心としてー	東北大 抗酸菌研究所長	涌井 昭	胃癌に対するシスプラチンを中心とした化学療法の研究について エトポサイドの使い方のPhase I Studyについて			
第 183回	1991年4月16日	臨床側から見た統計学的エラー	京大生体医療工学研究センター	前谷 俊三				
第 184回	1991年5月21日				胃癌に対するシスプラチンを中心とした化学療法実施要領について 鎮吐剤Y-25130について	吉富製薬	大川	
第 185回	1991年6月18日	癌化学療法の効果増強へのアプローチ	九大2外	杉町 圭三				
第 186回	1991年7月16日	エトポシドの少量連日経口投与の基礎と臨床	ブリistol・マイヤーズ・スクイブ株式会社	小島 寛之	話題 横須賀共済(谷口・長尾)			
第 187回	1991年9月17日	肺癌に対するAdjuvant chemotherapy	国立九州がんセンター	大田 満夫				
第 188回	1991年11月20日	腸管免疫能を応用した消化器癌の治療	国立京都	戸部 隆吉	胃癌に対するシスプラチンを中心とした化学療法の研究、中間報告			
第 189回	1992年1月21日	悪性リンパ腫 ー診断と治療 最近の動向	がんセンター	下山 正徳	CDDPIによる胃癌治療例の中間報告 木村 禧代二先生を名誉会長に推薦 症例 君津病院(福山)MST-16による治療			新年会(癌と化学療法社会議室)
第 190回	1992年2月18日	新しいTopoisomerase II 阻害剤(NC190)	大正製薬開発部	中池 司郎				
第 191回	1992年3月17日	胃癌の内視鏡的治療	埼玉がんセンター	ニッ木 浩一	症例 坪井病院(安藤)MMC-5FU持続投与			
(1992年4月18日 丸の内ホテル)胃癌に対するシスプラチンを中心とした化学療法の研究 中間検討会・判定委員会								
第 192回	1992年4月21日	白血病と類縁疾患ー診断と治療、最近の動向	名大分院内科	大野 竜三	胃癌に対するCDDP療法中間報告			会計報告(渡辺 石和温泉病院)
(5月休会 ASCO出席会員多数のため)								
第 193回	1992年6月16日	抗癌剤としてのレチノイド	日本ロシユ研究所腫瘍学部	田中 裕				
第 194回	1992年7月21日	癌遺伝子の作用と阻害物質	慶大理工学部生物化学研究室	梅沢 一夫				
(9月休会 祝日のため)								

第 195回	1992年10月20日	Hypotonic cisplatinによる癌性胸膜炎の制御	国立九州がんセンター	一瀬 幸人	症例 CDDP・Etoposide・Tegafurによる食道癌化学療法	帝京大外科	花谷	
		Free Platinumのdose intensityを基にした原発性肺癌に対するCDDP+CBDCA併用	日医大4内	小林 国彦				
第 196回	1992年11月17日	Microtubulin関連抗癌物質	都立駒込病院	富永 健	症例 肺癌治療前後のQOL	千葉肺癌研	中田	
第 197回	1993年1月19日	QOLの問題	君津中央	鈴木				新年会(癌と化学療法社会議室)
			東邦大	坪井				
			日医大	刈谷				
			千大肺研	中田				
			昭和大豊洲	栗原				
第 198回	1993年2月16日	トポイソメラーゼと抗癌剤	千葉がんセンター	小黑 昌夫	症例 多発性胃癌の化療CPT-11と他剤の併用について	君津中央	福山	
第 199回	1993年3月16日	殺細胞作用からみた5FUの作用様式と至適投与法	癌研	稲葉 実	症例 DMH誘発ラット大腸癌の発生・増殖に対する脾摘の影響	順大	鎌野	
第 200回	1993年4月20日	ストレス応用とストレス蛋白質	東京都臨床医学総合研	矢原 一郎				会計報告(渡辺 石和温泉病院)